

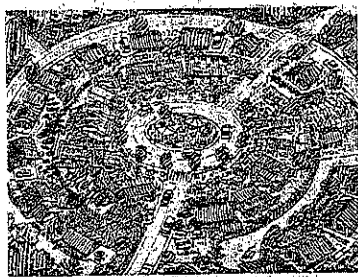
コンテナで仮設商店街

陸前高田 地元企業などが運営会社

震災で壊滅的な被害を受けた岩手県陸前高田市で23日、地元の中小企業が集まり、新たに株式会社を設立した。新会社は全国から1口5万〜10万円の投資を募り、約20店舗の仮設商店街を開設し、自然エネルギー発電や宿泊施設なども展開する予定。10年後には各事業を独立させ、地域の雇用の受け皿にしたいという。

地域の雇用創出狙う

新会社は、同市の老舗みそ・しょうゆ製造会社「八木沢商店」や「高田自動車学校」など地元4社と、東京のコンサルタント会社が資本金300万円で設立した「なつかしい未来創造」。東京のコンサルタント会社



仮設商店街のイメージ図

は震災後、陸前高田市の企業で、県外の学生が就業体験するインターンシップ事業を仲介した縁で、新会社設立に参加した。

仮設商店街は同市竹駒町の約4,600平方メートルの私有地に貨物コンテナを円形状に並べる。食料品店や日用雑貨店が入り、11月中の開店を目指す。電力は、太陽光や間伐材を燃料にした自然エネルギーで賄われ、余った電力の売電も検討する。さらに、将来の雇用の受け皿をつくるため、地元特産の気仙杉で建てた宿泊施

設の経営や、津波体験を風化させないようとする防災教育事業を手がける。各事業が軌道に乗れば、企業として独立させ、「未来創造」は10年で解散する計画だ。23日の設立総会で社長に就任した高田自動車学校の田村浩社長(64)は「陸前高田の復興には新たな産業が必要だ。会社を発展させ、多くの雇用を生み出した」と話している。